

第10回コンクール大賞の選考について

「わが村は美しくー北海道」運動が目指す姿とは、幾世代にも渡り営まれてきた農林水産業の健全な生産活動によってもたらされる「景観」、「地域特産物」、「人の交流」という3つの要素が、相互に関連し合いながら全体として調和を保ち、総合的に地域住民の生活に溶け込んで形成される「豊かさ」が醸し出す「美しい農山漁村」である。

今回の大賞審査においては、次の審査項目に基づき「景観」、「地域特産物」、「人の交流」の3つの要素との関わりを含め、総合的に評価した。

- 1 農林水産業の生産活動との関係性
- 2 活動に対する地域住民の主体的関与の度合い
- 3 継続性・持続性
- 4 地域住民の理解の度合い
- 5 個性・独創性
- 6 地域活性化への効果

これらの観点から、審査対象となった13団体の活動を審査すると、先に述べた「わが村」運動が目指す姿への取り組み内容に関しては、何れの団体も地域が主体となった魅力ある活動として評価されるものである。この中から今日の社会状況に呼応する先導性、モデル性において、特に優れている次の2団体を大賞として選考した。

大賞団体名:北のなのはな会(安平町)

再生可能エネルギーや観光資源として「菜の花」の新たな可能性を見出す取り組みを推進

～選考ポイント～

- 当初はバイオマス燃料に興味を持った有志による再生可能エネルギー資源の勉強会として活動開始。
- その後「菜の花」栽培の可能性を追求する「北のなのはな会」を立ち上げ、町内の菜の花栽培や菜の花を活用した特産品づくりなど町の先駆的役割を担う。
- 「菜の花の咲く農村景観」を地域の新たな観光資源と考え、町の観光協会とも連携したイベントの開催など、安平町のイメージアップに貢献。
- 菜の花栽培を活用した養蜂事業への取組など、地域への波及効果が高いと評価。

大賞 団体名:ほんべつ豆まかナイト実行委員会(本別町)

町の特産物である「豆」を利用した豆まきイベントを開催、交流人口の増加、地域活性化に寄与

～選考ポイント～

- 本別町では特産品の「豆」の消費拡大や地域活性化への取組を従前から実施。
- 参加型の豆まきイベント「ほんべつ豆まかナイト」は、イベントの準備・運営を通じて、町内のコミュニティ形成や人材育成なども目指している。
- イベントで使用する大豆を栽培する「まく豆作ろうぜプロジェクト」では、子ども達と一緒に、種植え、収穫を行い、食育を含めた地域学習の体験の場として実施。
- 「豆」の魅力を介した物づくりや人の交流など、十勝の農業を継承する人材育成も期待。